とことん知りたい！台湾！

こんにちは、台熊友好会です。今回で六回目になりますが実は、コラムの締切りは結構早く、この記事を書いている今まさに日本は年の瀬なのですが、皆様のお手元に届く2月は、今度はちょうど台湾の年の瀬に当たります。そこで今回は、台湾の暦と年号について少しお話しさせて頂きたいと思います。

國曆（国暦）と農曆（農暦）

中華圏では「春節（旧正月）」を祝うことをご存知の方も多いかと思いますが、台湾も例に漏れず「春節」を祝います。「太陰暦（太陰太陽暦）」、「旧暦」といった方が馴染み深いかも知れませんが元日は、今年は2月10日に当たり、台湾行政院公表のカレンダー（一般の企業も概ねこれに準拠）によれば、正月休みは2月8日から14日までとなっています。少々細かい話になりますが､内2月9日は大晦日に当たる「除夕」。2月10日が「旧暦の元日」。正月休みは基本三日間ですが、今年は10日、11日が土日と重なるため、2月14日まで延長となるのです。ここで注目したいのが、大晦日前夜の8日。この日が休日となる分は、2月17日の土曜日を「振替出勤日」とすることで、帳尻が合わせられています。

台湾では公用暦としては「太陽暦（グレゴリオ暦）」による「新暦」が、「国暦」と称して採用されています。その一方で、「春節」をはじめ「清明節」「端午節」「中秋節」など伝統行事は､「農暦」と呼ばれる「旧暦」に基づいて行われます。「国暦」の年越しは「跨年」、「農暦」の年越しは「過年」と呼ばれます。

「国暦」と「農暦」の両方からなる台湾の暦は､明治5年の「新暦」切り替えと共に、「旧暦」が一気に姿を消した日本の感覚からすると、一見混在しているようにみえるものの、伝統的な行事に紐づく「農暦」を残しつつ、日々の生活や仕事は「国暦」を基本としており、ある意味画期的だと感じずにはいられません。

「国暦」の1月1日は台湾でも休日ですが、これは正月としてではなく「開国記念日」としての休日になります。今年のように1月1日が月曜から始まる場合は、土日もあわせて連休として扱われるケースもありますが、基本12月31日まで、また1月2日からも普段と何も変わりません。とはいうものの「国暦」の1月1日へ向けての台北カウントダウン花火は、非常に有名ですし「新年快樂（Happy New Year）」と、新年を祝う言葉も耳にします。但し彼らにとっての正月は、やはり「春節」の方です。在台当時、12月に入っても特段師走の気配もなく、年末年始を迎えることに一抹の寂しさを覚えたものです。

「春節」は、周知の通り毎年日付が変わります。例えば大学の場合講義回数は、どこも大体18週と決まっており、春節が前後する分は、「春節」を挟む冬季休暇、また学年末の夏季休暇の長さで調整され「国暦」と「農暦」の混合型に慣れるまでは、毎年軽く混乱していました。

「春節」の頃は、街に赤と金の装飾が溢れ、「春聯」と呼ばれる赤い紙に金色や黒のインクで縁起の良い言葉が書かれたものが、家の入口や門に貼られているのを至る所で目にします。一般的な過ごし方としては、基本的に家族が一堂に会し、年越しに向け「過年菜」なるお祝いの料理を囲みます。親戚等も集うことにより、台湾の年越しはかなり賑やかです。また日本のお年玉のような習慣もあり、「紅包」と呼ばれる赤い袋にお金を入れ、日本では子供達に向けてですが、台湾では高齢の両親等へ贈ることもあるようです。

民國（民国）

台湾では、公文書に年を記載する場合、十中八九「西暦」は使われません。代わりに台湾での年号「民国」で表記します。日本の元号表記に近い感覚の「民国」ですが、起源は1912年1月1日、南京における孫文の中華民国建国宣言にあるといいます。日本統治時代は、日本の元号が採用されていましたが、台湾では長らく年の表記は「民国」です。例えば行政機関からの書簡、紙幣の発行年、運転免許証、健康保険証、確定申告書類、住宅賃貸契約書等、例を挙げればきりがありません。

今年は、民国113年です。数字が三桁になってからは間違うことはありませんが、文章の中で「民国」の表記なしで85年や98年など数字のみが書かれているものも多く、「民国」で年を表記することを知らずに読むと、西暦の1985年や1998年のことかと勘違いしてしまい、内容がおかしくなってしまいます。ちなみに民国85年は、1996年。民国98年は、2009年です。「西暦の下二桁から11を引けば、『民国』年になるよ」と、在台当初民国の歴史に無知で、「民国」の数字に困惑していた際、知人が教えてくれた換算法です。

尚、この「民国」年の起点は、先の「国暦」の1月1日にあるので、年明けと共にお正月を迎える日本とは大きく異なり、「民国」の年が変わり（数字が1増える）はするものの、それからひと月程経った頃､盛大にお正月を祝うのです。「国暦」と「農暦」「民国年表記」の混在もまた、台湾の魅力なのかも知れません。

（石橋 妙子）

中国語一言レッスン

「新年快樂」（シン ニェン クァイ ラー）

今回は、本文にも登場した「新年快樂」です。一般的には「明けましておめでとう（ございます）」と訳されますが、台湾では年を越す前の「良いお年をお迎え下さい」に当たる言葉は特にないため、年末年始の挨拶の総称といえます。「春節」の今だからこそ、是非使ってみて下さい。

Facebook　Instagram TAIYUU_YUKOU